

日本鱗翅学会版「保全のシンボルとしての 都道府県のチョウ」の決定

矢後 勝也¹⁾・日本鱗翅学会自然保護委員会²⁾

¹⁾ 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学総合研究博物館

²⁾ 〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1 大阪公立大学大学院農学研究科
環境動物昆虫学研究グループ内 日本鱗翅学会自然保護委員会事務局

2019年から、日本鱗翅学会自然保護委員会により「保全のシンボルとしての都道府県のチョウ」の選定がスタートした。チョウは身近で親しみやすく、環境保全のフラグシップとして適した生物群であることから、チョウを取り巻く自然と動植物の維持を目的として立ち上げた企画である。約70年前、日本昆虫学会がオオムラサキを日本の国蝶として認定した事例（高島、1957）があるが、今回の目的は多少異なるものの、これを都道府県単位で本会が選定する試みと言えば理解しやすいだろう。

本企画の発端および最終的な候補種の選定に至るまでの経緯は、石井（2022）および矢後・日本鱗翅学会自然保護委員会（2024）に掲載されているために、本稿では割愛するが、本委員会地区自然保護委員と協力者の取りまとめで各都道府県から複数の候補種を選定し、すでに「県蝶」が指定されている埼玉県と沖縄県を除き、最終的には各地区の会員の投票により地区ごとに都道府県のチョウを決めることとなった。

2024年6月に開催された評議員選挙と同時に、各都道府県のチョウ1種を決める会員投票が行われ、6月28日に集計作業が終了した。投票の結果、同数票で複数種が選ばれた際には、他の自治体で選ばれた種と重複しないように調整したり、保全がより必要な種を選んだり、土地柄にふさわしい種を選定したりするなど、様々な観点から考慮された上で、各地区自然保護委員会の裁量により8月3日に最終決定がなされた。その結果は表の通りである。

また、以下では決定された各都道府県のチョウとその選定理由を概説した。選定理由については、矢

後・日本鱗翅学会自然保護委員会（2024）で記した内容の再録に近い形となるが、ここであらためて報告しておきたい。

【北海道地区】（地区自然保護委員長・島谷光二）

エゾシロチョウ：国内では北海道特産で全域に生息する。身近で親しみやすく、一般に興味・関心を抱く契機になりやすい。小学校の教材としても利用。北海道の古称を指す「エゾ」の名を冠する。

【東北地区】（地区自然保護委員長・工藤 忠）

青森県 ゴマシジミ：青森県人・石村 清（1952）が、クシケアリを寄主とする本種の特異な生活史を解明。竜飛岬の本種は形態的・遺伝的に特殊な個体群として知られるが、県内各地で生息地の減少傾向が目立つ。

秋田県 ヒメギフチョウ：県内の大部分の地域に生息記録があり、身近で親しみやすい。その一方で里山の荒廃化等により生息地が縮小している。

岩手県 チョウセンアカシジミ：本県にて日本で初めて発見された。宮古市・岩泉町など県内の生息する各市町村で天然記念物に指定されており、一部地域では充実した保全活動が行われている。

山形県 ギフチョウ：県内では生息地が多いものの、管理放棄により減少傾向にある。ヒメギフチョウとの棲み分け現象や混生地の存在から東北屈指の*Luehdorfia*地帯となっており、大石田町や鮭川村などでは両種が天然記念物に指定されている。

宮城県 ヒメギフチョウ：本州亜種*inexpecta*のタイプ産地があり、本県の里山環境を象徴する存在（図

1). 里山の荒廃や開発により減少傾向が見られる。
福島県 キマダラルリツバメ：西会津地方での豊産が全国的に有名。金山町・三島町・西会津町指定天然記念物、只見町指定貴重野生動物植物。道路拡幅や発生木の伐採により減少している。

〔関東地区〕(地区自然保護委員長・小田康弘)

茨城県 チャマダラセセリ：県北地域の産地が注目されてきたが、近年では激減して絶滅が危ぶまれる。

栃木県 シルビアシジミ：太平洋側の分布北限。明治時代にフェントンが鬼怒川で採集。さくら市指定の天然記念物で、地元住民を主体とした保全活動も行われている。

群馬県 ヒメギフチョウ：県指定天然記念物で、赤城山に孤立した産地があり、積極的な保全活動が行われている。近年のシカによる食害が著しく生息数が減少。

埼玉県 1991年に県がミドリシジミを県蝶に指定しているために選定せず、本種をリストに掲載した。

千葉県 ルーミスシジミ：本県は日本亜種 *loomisi* のタイプ産地で、東限かつ隔離分布地として有名。山砂採取のための開発やナラ枯れによる食樹枯死の影響が懸念されている。

東京都 オガサワラセセリ：世界で東京都にしかない小笠原固有種。種の保存法の国内希少野生動物種にも指定。保全のシンボルとしては最適で、世界自然遺産内での希少種保全の取組は観光資源にもなり得る。

神奈川県 ギフチョウ：県指定天然記念物。特に石砂山では食草を含めた積極的な保全活動が行われていて、観察者・撮影者も多く集まる。

山梨県 オオムラサキ：全国的に見ても有数の産地を抱え、県民における知名度も高い。里地里山の代表的な指標種で、自然環境の変化に敏感。韮崎・北杜周辺では保全活動が長く続けられている。

〔信越地区〕(地区自然保護委員長・福本匡志)

長野県 オオルリシジミ：県指定希少野生動物植物、東御市天然記念物、安曇野市天然記念物。田園地帯や草原帯の象徴種として県内に広く分布していたが、管理放棄や圃場整備により激減。行政・保全団体・市民の連携により積極的な保全活動が続けられている。

新潟県 クモツマキチョウ：県指定希少野生動物植物、県指定生息地天然記念物(糸魚川市)。国内の



図1 宮城県のチョウに決定されたヒメギフチョウ (撮影：宮城県仙台市)

北限で、近年は道路改良工事等で減少。可憐な色彩から保全のシンボルとしても妥当。

富山県 タカネヒカゲ：本県に連なる北アルプスの高標高地に生息。高山の仙人として認知が期待できる。クモツマキチョウも同数トップ票であったが、隣の新潟県のトップ票種と重なることから、信越地区自然保護委員会内での選定により本種に決定した。

石川県 シルビアシジミ：全国的に減少している草地性種だが、能登半島の海岸域で最近確認された。国内での分布北限でもある。

〔東海地区〕(地区自然保護委員長・鈴木英文)

岐阜県 ギフチョウ：和名は本県で最初に採集されたことに由来し、県内では知名度が高い。日本固有種。里山環境の開発や管理放棄等で減少傾向。揖斐川町・白川村などでは保護条例での規制がある他、各地で保全活動も行われている。

愛知県 ヒメヒカゲ：県指定希少生物種。平野から山地の湿性草原に広く生息域があったが、現在ではその多くが消滅。生息地は天然記念物や植生保全地域に指定され、一部地域では保全活動も進められている。

静岡県 フジミドリシジミ：日本固有種で、和名は本県の象徴である富士山に由来し、学名のタイプ産地でもある。県東部(伊豆半島)から西部まで広く分布する。食樹のブナ林に生息し、落葉広葉樹林帯が育む多様な生物の代表種である。

三重県 キリシマミドリシジミ：国内では本県の御在所岳中腹で初めて採集。県内では鈴鹿山脈周辺と大ヶヶ原周辺の照葉樹林帯に分布。鈴鹿山脈にかか

る菰野町では県の天然記念物に指定されている。

[近畿地区] (地区自然保護委員長・森地重博)

福井県 クロシジミ：旧和泉村（大野市）の条例で保護対象種。北陸各県に少なく、隣接する滋賀県でも激減。生息環境の変化を受けやすく、保全の指標として相応しい。

滋賀県 オオムラサキ：かつては県内に広く分布していたが減少。アサギマダラも同数トップ票であったが、数年前から甲賀市や大津市など湖南地方での本種の復活傾向が注目されていることや、米原市では保全活動を30年以上にわたり続けている団体があり、地元の小学生らとの保全活動が行われ、地元企業も応援しており、マスコミを通じて県内ではよく知られているチョウであることなどを考慮し、本種の方がよりシンボルに相応しいと判断した。

京都府 ヒサマツミドリシジミ：本種の生態解明期に京都市杉峠は全国のチョウ愛好家が集まる社交場的な場所であった。越冬卵を発見したのも京都のアマチュアであり、京都の愛好家にとって特別なチョウである。美麗種で、シンボルとしてアピールしやすい。

大阪府 ヒロオビミドリシジミ：県内の能勢町三草山は本種の分布東限。森林伐採や宅地開発で生息環境が減少。本会自然保護委員会を含む各種団体により保全対策が行われ、その対象種として広く知られる。

兵庫県 ウスイロヒョウモンモドキ：種の保存法の国内希少野生動物種。かつては県北西部に広く分布し、良好な草原のシンボルであったが、主にシカ食害により激減。行政・住民・保護団体による積極的な保全活動が進められている。

奈良県 ベニモンカラスシジミ：県南部の山岳地域崖地で局地的に分布する。紀伊半島の固有亜種で、県が有する特殊環境の保全が期待できる。

和歌山県 ウラナミアカシジミ紀伊半島南部亜種：紀伊半島の固有亜種で、本県大塔山系がタイプ産地。この亜種の食樹が県木のウバメガシであることも本県を特徴付けるシンボルとして適切。

[中国地区] (地区自然保護委員長・亀山 剛)

鳥取県 ヒサマツミドリシジミ：鳥取市久松山で最初に発見されたことが和名の由来となっている。ただし、久松山の本来の読みは「きゅうしょうざん」である。

岡山県 ウスイロヒョウモンモドキ：種の保存法の

国内希少野生動物種、岡山県指定天然記念物（生息地）。近年の減少が著しく、自然状態での発生は保全が積極的に行われている恩原高原のみ。

島根県 ゴマシジミ：中国地方の各地で激減しているが、本県ではまだ確認できる生息地がある。一方で減少傾向にあることから草地管理を中心とした保全が急務となっている。

広島県 ヒョウモンモドキ：種の保存法の国内希少野生動物種。県内に広く生息していたが、現在は世羅台地の一部に残るのみ。行政・地域住民等で構成される協議会により継続的な保全活動が行われている。

山口県 オオウラギンヒョウモン：現在、秋吉台が本州における唯一の生息地で学術的に重要。本種を含めた動植物の保全のため、草原再生の取り組みがなされている。

[四国地区] (地区自然保護委員長・窪田聖一)

香川県 ウラジロミドリシジミ：四国では本県のみ生息する里山代表種だが、産地は局地的で減少傾向にある。

徳島県 ルームスシジミ：現在では四国唯一の生息地があり、貴重な個体群と言える。

高知県 ベニモンカラスシジミ：四国で発見された希少種で、石灰岩地域に局地的に分布するが、県内には安定した産地がある。

愛媛県 ツマジロウラジャンメ：四国の分布域では減少が著しいが、本県では唯一安定して生息。四国産は固有亜種*kampuzana*とされる。

[九州地区] (地区自然保護委員長・佐々木公隆)

福岡県 クロシジミ：全国的に減少しているが、県内では比較的産地が多く、里地里山保全のシンボルに適切。

大分県 クロコムラサキ（コムラサキ黒色型）：豊後の三国で採集された黒色型から*f. mikuni*と命名された本県に由来のあるチョウ。近年は各地で減少傾向が著しい。オオルリシジミ九州亜種とトップ同票であったが、県内の名称が付いたゆかりの深い本種に決定した。

佐賀県 アオスジアゲハ：県の花がクスノキであるため、これを食樹とする本種を選出。美しい大型種のためシンボルとしても適当と判断した。

長崎県 ツシマウラボシシジミ：種の保存法の国内希少野生動物種で、国内では本県対馬にのみ産す



図2 長崎県のチョウに決定されたツシマウラボシジミ (撮影:長崎県対馬市)

る固有亜種 (図2)。野外では一時風前の灯であったが、昆虫園館の系統保存や複数の保全エリア設置により復活しつつある。ナガサキアゲハも同数トップ票であったが、今回の選定では保全のシンボルを目的としていることや、本種の保全に本会自然保護委員会が深く関わっていることから本種に決定した。

熊本県 ゴイシツバメシジミ: 本県で発見され、国指定天然記念物および種の保存法国内希少野生動植物種に指定。熊本県・環境省ともにレッドリスト絶滅危惧IA類にランクされている。

宮崎県 ツマベニチョウ: 本県が世界の最北限。南国宮崎にマッチしていて、色彩・サイズとも認識しやすく、一般でも観察可能。すでに団体による保護活動もある。

鹿児島県 サツマシジミ: 和名に本地域の旧称・薩摩の名があり、鹿児島県全体で見ることができる代表種。鹿児島昆虫同好会のシンボルマークでもある。

沖縄県 2020年に県がオオゴマダラを県蝶に指定しているために選定せず、本種をリストに掲載した。

このように、本企画において約5年の年月をかけて得られた「保全のシンボルとしての都道府県のチョウ」の選定結果が示された。ただし、保全状況や優先順位は時代ごとに変化するため、この決定種は何年後、または何十年後かに改選しても良いかもしれない。実際に本委員会の選定会議の中で「異なる観点で複数種を選ぶのはどうか」という意見も出たことから、次回の企画時にはそのようなアプロー

チを採用しても面白い。順位を優先して決定種が重複する府県が複数あることも、今後の課題として挙げられるだろう。

今回の「都道府県のチョウ」企画は、長年にわたり検討してきたテーマであるため、単なる決定に終わるのではなく、チョウ類の保全を促進する実践的なシンボルになるよう、学会としては広く発信することが求められる。学会ホームページへの掲載や本会会員による活用はもちろんのこと、行政機関などへのアピールを通じて、広範に利用してもらうことも一つの手段と考えている。こうした活動や利用が、チョウ類をはじめとする動植物全般の保全に貢献することを望むところである。保全活動は常に参加者不足や後継者不足、資金不足などの重大な課題に直面しているが、これらの問題を少しでも解決し、生物多様性に対する理解が一般市民にも広がっていくことに強く期待したい。

謝辞

この企画の遂行にあたり、提案者の石井 実元会長には立案から講演、助言に至るまでお世話になった。2024年度選挙管理委員会の委員および立会人には票数の集計で大変お手数をおかけした。本会自然保護委員会の役員および各地区自然保護委員長・地区自然保護委員ならびに協力者の方々には多大なご尽力を頂いた。また、多くの地方同好会から本企画にご賛同頂くとともに、アンケート等でもご支援を賜った。やどりが編集委員長の北川朝生氏には本稿の掲載にあたり快く編集頂いた。末文ながら関係者各位に心よりお礼申し上げる。

引用文献

- 石井 実, 2022. 保全のシンボルとしての「都道府県のチョウ」の選定の提案. 平井規央・森地重博・矢後勝也・神保宇嗣 (編), 日本産チョウ類の衰亡と保護. 第8集:109-124. 大阪公立出版会, 大阪.
- 石村 清, 1952. 日本産ゴマシジミの生活史. 生態昆虫, 4: 27-34.
- 高島春雄, 1957. オオムラサキ国蝶となる. 新昆虫, 10(12): 17.
- 矢後勝也・日本鱗翅学会自然保護委員会, 2024. 日本鱗翅学会版「保全のシンボルとしての都道府県のチョウ」選定について. やどりが, (279): 51-59.

表 「保全のシンボルとしての都道府県のチョウ」 投票結果および最終決定種

選挙管理委員：矢後勝也（委員長）、福田晴男、巽原 茂 立会人：川田智子、長谷川大 開票日：2024.6.28 自然保護委員会最終決定日：2024.8.3

地区	都道府県	最終決定種（県：県制定）	投票結果	備考	担当自然保護委員・協力者
北海道	北海道	エゾシロチョウ	エゾシロチョウ10票、ジョウザンシジミ5票、ヒメギフチョウ北海道亜種2票		島谷光二・森 一弘・高木秀了・上野雅史
東北	青森	ゴマシジミ	ゴマシジミ16票、カバイロシジミ5票、フジミドリシジミ3票		工藤 忠
	秋田	ヒメギフチョウ	ヒメギフチョウ15票、ミヤマカラスアゲハ7票、ミドリシジミ1票		梅津 一史
	岩手	チョウセンアカシジミ	チョウセンアカシジミ20票、ゴマシジミ3票、キマダラルリツバメ1票		三浦秀明
	山形	ギフチョウ	ギフチョウ15票、チョウセンアカシジミ8票、ヒメギフチョウ0票		佐藤博之
宮城	ヒメギフチョウ	ヒメギフチョウ18票、ヒメシロチョウ5票、アオシジメ1票			阿部 剛
	キマダラルリツバメ	キマダラルリツバメ17票、キベリタテハ5票、アサギマダラ1票			斎藤忠雄
関東	茨城	チャマダラセセリ	チャマダラセセリ63票、ウラゴマダラシジミ31票、ウスバシロチョウ5票、ゴマダラシジミは選定外票		佐々木泰弘
	栃木	シルビアシジミ	シルビアシジミ59票、ツマグロキチョウ21票、フタスジチョウ20票	県で制定	青木好明
		ヒメギフチョウ	ヒメギフチョウ58票、ミヤマシロチョウ27票、コヒョウモンモドキ15票		松村行栄
		ミドリシジミ	ミドリシジミ		宇野 彰
群馬	ルーミスシジミ	ルーミスシジミ82票、ヤマキマダラヒカゲ房総半島亜種14票、シルビアシジミ8票		高橋 彰	
東京	オガサワラセセリ	オガサワラセセリ55票、フジミドリシジミ26票、ギンイチモンジセセリ23票		巽原 茂	
神奈川	ギフチョウ	ギフチョウ45票、キマダラルリツバメ43票、クロツバメシジミ16票			針谷 毅
	オオムラサキ	オオムラサキ76票、ヤマキチョウ18票、ヒメシロチョウ10票			渡邊通人
東海	岐阜	ギフチョウ	ギフチョウ12票、クモツマキチョウ0票、ヒサマツミドリシジミ0票	ヒメシジミは選定外票	鈴木英文
	愛知	ヒメヒカゲ	ヒメヒカゲ13票、クロツバメシジミ東日本亜種2票、ギフチョウ2票、ヒメシジミ1票		岩下幸平
静岡	フジミドリシジミ	フジミドリシジミ14票、ヒメヒカゲ2票、オオムラサキ1票、キリシマミドリシジミ1票		キリシマミドリシジミは選定外票	諏訪哲夫
	キリシマミドリシジミ	キリシマミドリシジミ6票、ウラナミアカシジミ紀伊半島南部亜種5票、ミカドアゲハ4票、ギフチョウ0票			大島康宏・河本 実
信越	長野	オオルリシジミ	オオルリシジミ7票、ミヤマシジミ3票、ミヤマシロチョウ1票	オオゴマダラシジミは選定外票	福本匡志
	新潟	クモツマキチョウ	クモツマキチョウ4票、オオゴマシジミ2票、ギフチョウ2票、オオヒカゲ1票、オオゴマダラシジミ1票		福本匡志・中野 潔
	富山	タカネヒカゲ	クモツマキチョウ4票、タカネヒカゲ4票、ミヤマモンキチョウ2票		2種トップ票のうちクモツマキチョウは新潟県のトップ票種と重なることから、信越地区自然保護委員会によりタカネヒカゲに決定
石川	シルビアシジミ	シルビアシジミ5票、アサマシジミ2票、ホシチャバネセセリ2票			富沢 章
近畿	福井	クロシジミ	クロシジミ20票、ギフチョウ17票、オオムラサキ2票	2種トップ票のうち近畿地区自然保護委員会によりオオムラサキに決定	木村富至
	滋賀	オオムラサキ	オオムラサキ15票、アサギマダラ15票、ウラジロミドリシジミ10票		南 尊演
京都	ヒサマツミドリシジミ	ヒサマツミドリシジミ18票、キマダラルリツバメ14票、スギタニルシジミ13票			小野克己
奈良	ベニモンカラスシジミ	ベニモンカラスシジミ20票、ルーミスシジミ15票、ウラナミジャノメ5票、ギフチョウ1票、ウラナミシジミ1票		ウラナミシジミは選定外票	平井規央
大阪	ヒロオビミドリシジミ	ヒロオビミドリシジミ36票、キマダラルリツバメ3票、ギフチョウ2票			中上喜史
	ウスイロヒョウモンモドキ	ウスイロヒョウモンモドキ33票、ヒメヒカゲ8票、ギフチョウ2票			近藤伸一
和歌山	ウラナミアカシジミ紀伊半島南部亜種	ウラナミアカシジミ紀伊半島南部亜種26票、ルーミスシジミ9票、キリシマミドリシジミ4票			小島和也・那須義次
中国	鳥取	ヒサマツミドリシジミ	ヒサマツミドリシジミ9票、キマダラルリツバメ8票、シルビアシジミ0票		田村昭夫
	岡山	ウスイロヒョウモンモドキ	ウスイロヒョウモンモドキ16票、ゴマシジミ1票、ヒロオビミドリシジミ0票		三宅誠治
島根	ゴマシジミ	ゴマシジミ10票、ヒメヒカゲ5票、シルビアシジミ2票			山岸瑞樹
	ヒョウモンモドキ	ヒョウモンモドキ15票、カシワアカシジミ（キタアカシジミ）冠高原亜種2票、ギフチョウ0票			亀山 剛
山口	オオウラギンヒョウモン	オオウラギンヒョウモン14票、ギフチョウ2票、ホシミスジ0票			後藤和夫
四国	香川	ウラジロミドリシジミ	ウラジロミドリシジミ6票、ウラミスジシジミ4票、ミドリシジミ0票		窪田聖一
	徳島	ルーミスシジミ	ルーミスシジミ7票、シルビアシジミ0票、ギンイチモンジセセリ0票		窪田聖一・後藤昭文
	高知	ベニモンカラスシジミ	ベニモンカラスシジミ5票、ヘリグロチャバネセセリ1票、ヒサマツミドリシジミ1票		窪田聖一
愛媛	ツマジロウラジャノメ	ツマジロウラジャノメ6票、スジグロチャバネセセリ1票、ウラナミジャノメ0票			窪田聖一・大西 剛
九州	福岡	クロシジミ	クロシジミ12票、クロツバメシジミ9票、フジミドリシジミ3票	2種トップ票のうち九州地区自然保護委員会によりツシマウラボシシジミに決定	佐々木公隆
	佐賀	アオシジメ	アオシジメ13票、クロツバメシジミ7票、ウラキシジミ4票		古川雅通
長崎	ツシマウラボシシジミ	ナガサキアゲハ9票、ツシマウラボシシジミ9票、タイワンツバメシジミ5票、オオウラギンヒョウモン1票、シルビアシジミ0票			峰 正隆
熊本	ゴシツバメシジミ	ゴシツバメシジミ13票、オオルリシジミ九州亜種12票、オオウラギンヒョウモン0票			村田浩平
大分	クロコムラサキ（コムラサキ黒色型）	クロコムラサキ（コムラサキ黒色型）10票、オオルリシジミ九州亜種10票、アサギマダラ5票		2種トップ票のうち九州地区自然保護委員会によりクロコムラサキに決定	玉嶋勝範
	ツマベニチョウ	ツマベニチョウ12票、タイワンツバメシジミ6票、キリシマミドリシジミ6票			岩崎郁雄
鹿児島	サツマシジミ	サツマシジミ12票、キリシマミドリシジミ4票、ツマベニチョウ3票			二町一成・金井賢一
沖縄	オオゴマダラ	オオゴマダラ		県で制定	比嘉正一